



霞台小だより

ひばり

No. 680

令和5年4月28日 発行
青梅市立霞台小学校

校長 佐藤 広明

WITH・AFTER のコロナ教育

副校長 木下 一朗

コロナ禍対応の3年間が過ぎ、コロナ前の学校に戻ろうとする令和5年がスタートしました。この3年間で、学校の在り方と形は大きく変わり、新しい日常と言われる状況が普通となりました。

新4年生までの子供たちはそれまでの学校を知らないまま、学校生活を送ってきました。むしろ、コロナ禍の学校生活が当たり前のように感じているかもしれません。

様々な制限が緩和され、よりよい形の教育活動を実施していくためには、よりよい方策を以前の学校の中から引っ張り出し、新しい日常を踏まえつつ、教育活動を大きく転換していく1年にしていかなければなりません。もちろん、全てを元通りにするというのではなく、コロナ禍との融合を図っていくことになります。何が子供たちにとってより有益であるのか、情勢を見極めながら判断し、教育活動を進めていきます。それにより、本来の学校のもつ大きな役割を果たしていきたいと考えています。

コミュニケーション、縦や横のつながり、学校全体での取り組みなど、霞台小教職員全員の力で、よりよいWITH・AFTER コロナの教育を考え検討し、実施していきます。

霞台小学校の目指す学校像として令和5年度は、

惹きつける魅力のある学校のために、「子供が通いたくなる」「教職員が勤めたい」「保護者や地域が足を運びたい」ことを目指しております。

本校では、昨年3月に、電子黒板が各教室に入り、全教室に書画カメラを導入しました。また、全ての特別教室にも大型テレビを導入することができました。デジタル教科書の活用も4月から開始されました。今年度は、ICTの活用を特別なものでなく、普段の授業を充実させるためのツールとして、活用していきます。

また、昨年度プールの改修が終わり、久しぶりに水泳指導を実施することができました。校庭の砂も入れ替えたり、学童付近のピロティには、階段が設置されたりしました。トイレもきれいになり、施設・設備が整えられてきています。

今年度は、夏休み期間中の工事で、体育館にエアコンが設置される予定です。より充実した環境で子供たちの学習が進められるようになります。



霞台小学校HP

令和5年度学校運営連絡協議会委員の方々

よろしくお願いします。

唐津 直樹さん(青少年委員) 加藤 直樹さん(東京学芸大学教授) 高野 一樹さん(地域協力者) 平岡 康男さん(本校PTA会長) 和山 満雄さん(第三支会長) 山岡 正和さん(地域協力者) 星野 弘美さん(霞台第二保育園長) 小花 紀彦さん(第九支会長) 田中 利夫さん(野上3,4丁目自治会長) 平井 明美さん(学識経験者) です。